伝えたいこと笑いにのせて

在日コリアン3世 コメディアン きょんほ さん

「在日3世です。学校で教員していて、自己紹介しただけで、生徒から『先生が政治的発言していた。いいんですか』と言われました」「なんと自己紹介すればいいのか。『ぼくのおじいさんが朝鮮半島から日本に強制労働…、いや、連れてこられて…、（いやだめだ。）なんとなく来て…』」。スタンダップコメディアンのきょんほさん（28）は、在日コリアン3世。自身のルーツをネタに笑いを届けます。（都光子）

在日ネタを披露する、きょんほさん＝9日、大阪市内

きょんほさんの祖父が日本に来たのは戦後直後のことでした。日本が朝鮮半島を植民地支配していた時代、日本国内でもたくさんの朝鮮人がダムや道路、工場などで働いていました。医学生だった祖父は、多くの朝鮮人が日本で言葉がわからずに医療が受けられていない状況を知り、日本で診療所を開きました。きょんほさんは祖父から直接聞いたことがなく、他界したあと知ったと言います。

きょんほさんは川崎市出身。東京にある韓国の子どもたちが通う小学校で学びました。きょんほさんは日本生まれだったことから、友達から「日本人」といじめられました。「がんばって韓国語を勉強した」

中学高校は大阪のインターナショナルスクールへ。大学は日本の大学に進学しました。今度は留学生に間違えられたり、「日本にいるなら空気を読め」と教授に言われたりしました。「みんな在日朝鮮人のことを知らないんだ」―疎外感よりも、知ってほしいという気持ちのほうが強かったといいます。

題字は書家の金澤翔子さん

沖縄で魅せられて

小さいときからお笑いが大好きだったきょんほさん。大学でもお笑いサークルに所属。大学の卒業旅行で沖縄に行き、ウーマンラッシュアワー村本さんや、せやろがいおじさん、まーちゃんさんなど地元の芸人たちが米軍基地など社会問題を笑いにかえて伝えるお笑いライブを見て、魅せられました。

3年前、大阪で日本スタンダップコメディ第一人者、ぜんじろうさんのライブを見にいったとき、たまたまマイクを渡され、即興でネタを披露。「おもしろい」と見いだされ、コメディアンとして舞台に立つようになりました。高等専門学校の教員もしながらです。

スタンダップコメディはマイク1本でしゃべりまくるお笑い。ちゃかす相手は「社会的強者」。人を差別しないのが前提です。

沖縄旅行で出会った、せやろがいおじさん（左）ときょんほさん（2022年、きょんほさん提供）

きょんほさんは「お笑いで、自分のこと、在日のこと、日本と朝鮮半島のことを自分なりに表現していきたい」と言います。

在日を「カルピス」で説明するネタでは、「ぼくのおじいさんは朝鮮半島からやってきた第1世代、いわば原液。その子どもである2世は僕の親で、ちょっとまだ思想強め。で、3世の僕はだんだん薄まって、ちょうど飲み頃です」

植民地支配の説明は、なんとアンパンマンのストーリーにのせて説明。

「森で泣いていた犬にアンパンマンがおなかがすいただろうから食べろと顔をちぎっておなかを満たしてあげる。で、パン工場におびき寄せて、〝ここで働け〟と。ほら、徴用工」―会場を笑わせます。「名前が必要だ、きょうからおまえを〝チーズ〟と呼ぼう。創氏改名！」

心の痛みもネタに

昨年の参院選では、「日本人ファースト」と言って差別をふりまく政党の宣伝に心が痛んだと言います。その気持ちもネタにして笑いに変えました。「ストレートに反対というよりも、伝えたいことを笑いにのせると、理解しあえるんじゃないか」。笑いの力でみんながともに生きられる社会をつくります。

消費税 党財源案に期待

視覚障害者後援会が宣伝

東京・巣鴨駅前

日本共産党全都視覚障害者後援会は24日、東京都豊島区の巣鴨駅前で、総選挙で共産党の議席を伸ばそうと宣伝しました。用意した「しんぶん赤旗」日曜版見本紙30部がすべて受け取られるなど注目を集めました。

通行人に共産党への支持を呼びかける日本共産党全都視覚障害者後援会の人たち＝24日、東京都豊島区

「変えよう！国民に痛み、トランプと大企業にうまみの自民党政治」と書かれた横断幕を持ったりゼッケンをつけたりした参加者13人が通行人にアピールしました。

マイクを握った田中章治さんは「軍事費が加速度的に膨張してきている。アメリカに頼まれてやっていることだ。日本を戦争に巻き込む異常なアメリカ言いなり政治は退場させましょう」と訴えました。

参加した山城一枝さんは点字で文章を読み書きできる機器、ブレイルメモなどの修理時にも消費税の負担が大きいとして、消費税を5％に減税して廃止をめざす共産党の政策について「減税されればずいぶん違う。日本を戦争できる国にしないためにも共産党しかない」と強調しました。

「共産党は消費税を減税する財源はどうするの？」と参加者に話しかけてきた女性＝同区＝は、大企業や富裕層への減税を見直して財源をつくる共産党の政策を聞き、「とにかく消費税をなんとかしてほしい」と期待を寄せました。

儀武さとる豊島区議が参加してマイクを握りました。

お悔やみ

梅本　太さん（うめもと・ふとし、大阪一区地区）23日死去。92歳。家族葬を行います。

57年入党。元党支部長。

岡下　慶子さん（おかした・けいこ、京都府丹後地区）23日死去。92歳。通夜は25日午後6時から、家族葬は26日午前10時50分から、いずれも京丹後市久美浜町1111の、はーとホール久美浜で。喪主は岡下道明さん。

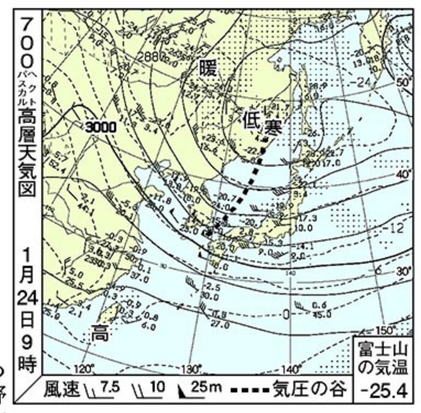
62年入党。

山本　ミチ子さん（やまもと・みちこ、長野県上伊那地区）21日死去。93歳。家族葬を行います。喪主は山本衛さんと小池弘子さん。

87年入党。

■24日の気温と天候（15時）

	最高	平年	最低	平年	天気
札幌	-2.3	-0.5	-10.9	-6.7	晴
仙台	3.3	5.4	-2.8	-1.6	晴
新潟	2.3	5.1	-0.8	-0.3	雪
東京	11.0	9.6	-1.3	1.0	晴
名古屋	7.9	9.1	-1.3	0.8	晴
金沢	3.8	6.6	1.1	0.7	霧
大阪	8.5	9.3	3.4	2.7	晴
広島	8.5	9.6	0.7	1.7	晴
松江	5.8	7.8	1.0	1.1	雪
高松	8.9	9.3	0.6	1.8	曇
福岡	8.8	9.9	2.8	3.6	曇
鹿児島	14.2	12.8	3.7	4.6	曇
那覇	19.0	19.4	14.7	14.6	晴



初天神

天気

初天神は毎年１月25日に行われる天満宮の年の初めの縁日です。北野天満宮や太宰府天満宮など各地の天満宮で行われ、受験生が合格祈願をする姿も見られます。また骨董（こっとう）やえとの置物などを求める市も開かれ、境内は参拝客でにぎわいます。露店の温かい食べ物や骨董探しを目的に、初天神へお出かけするのも良いでしょう。しっかりと寒さ対策をしてお楽しみください。

科学

長年の謎解明へ突破口

周期ゼミの計算式 13,17＝素数？ それとも ＝4n＋1？

米国東部にすむ「周期ゼミ」。地域ごとに13年か17年に1回という周期で、複数の種が同調して大発生することで知られています。13、17という数から「素数ゼミ」とも呼ばれますが、どうやって13年や17年を数えているのかは長年の謎です。京都大学、昭和医科大学などの国際研究チームが昨年、解明への突破口を開く研究結果を報告しました。明らかになってきた周期ゼミの〝計算式〟とは―。（中村秀生）

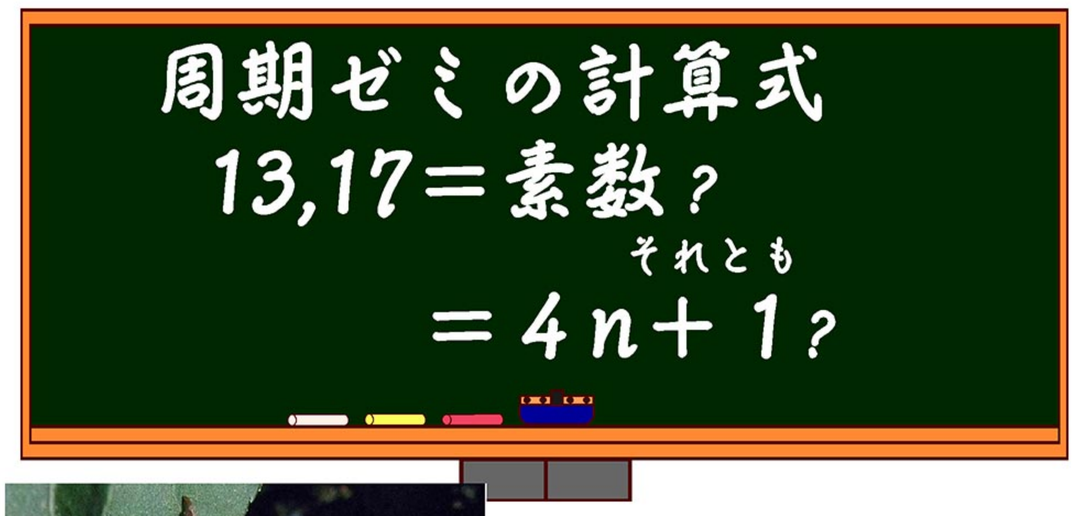
13と17。二つの発生周期が素数であることに意味はあるのか、13年や17年という生活史はどのように進化してきたのか、どうやってセミは数えているのか―。周期ゼミをめぐる多くの謎は、研究者たちの好奇心をかきたててきました。

そうしたなか、素数の周期が生存に有利だから生き残ったとする仮説が注目を集めてきました。

「その説に感動して引き寄せられ、周期ゼミの研究を始めた」と話すのは、研究チームのリーダー、曽田貞滋（いしじ）・京大名誉教授です。しかし、研究を進める途中で、13年、17年周期の起源を素数で説明するのは無理があると、疑問を感じるようになったといいます。

研究チームは今回、13と17がいずれも、4の倍数に1を加えた数（4n＋1）であることに着目。地中にいるセミの幼虫が何らかの方法で「4年」ごとに年数を計測し、年齢が4の倍数になった時点の体のサイズが羽化に十分かどうかチェックし、翌年に地上に出て羽化するかどうかを決めるしくみをもっているという仮説（4年ゲート仮説）を立て、検証に挑みました。

周期ゼミ（カッシニ）の成虫



赤い眼

「周期ゼミの中には、たまに早く羽化する個体がいます。1年や2年ずれる個体はほとんどいないのに、4年ずれは比較的多い。それで、4年ごとに発生するしくみがあるのではないかと言われるようになりました。ただ具体的な考えはありませんでした」と曽田さん。今回の研究は、約10年前に、曽田研究室にいた山本哲史（さとし）さん（現＝農業・食品産業技術総合研究機構主任研究員）が「4n＋1」年周期説にヒントを得て思いついたアイデアがきっかけ。それを発展させたのが4年ゲート仮説です。

研究チームは2019～22年の秋、オハイオ州やイリノイ州などの7カ所で野外調査を実施。17年ゼミの幼虫（11～16歳）1395個体を地中から掘り出して、眼の色や体重、成長段階、種などを判定しました。RNAを抽出して、幼虫の年齢ごとに働いている遺伝子の違いも調べました。

羽化する周期ゼミ（写真と図は、すべて曽田貞滋さん提供）

周期ゼミは、羽化の前年の秋までに眼が白から赤に変わることが知られています。赤い眼は、翌年に羽化するための準備ができている〝目印〟になります。

調査の結果、16歳の幼虫の97％が赤眼で体重も重いことが分かりました。11～15歳では、12歳の幼虫にだけ赤眼の個体が一定の割合（12％）存在し体重も重かったのに対し、ほかの年齢では赤眼はきわめてまれでした。赤眼の幼虫は、光の感知や翅（はね）や脚（あし）などの形態形成に関する遺伝子がよく働いていました。

12歳と16歳という4の倍数の年齢で、成長が進んだ個体が赤眼になっていたことに「予想したパターン通りです」と曽田さん。17年ゼミの一部が13歳で羽化する現象は、速く成長した個体が4年早い12歳で赤眼になったことと一致します。

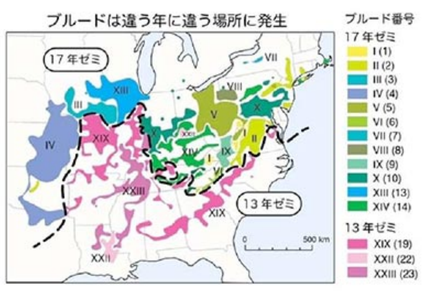
15歳の白眼の幼虫（上）と16歳の赤眼の幼虫

この仮説にもとづけば、周期ゼミの共通祖先がこのしくみを獲得した後、南部の温暖な地域では速く大きく成長するセミが13年ゼミとして定着し、北部の寒冷な地域には17年ゼミが定着したと説明できます。

道半ば

「13、17がたまたま素数なのであって、素数である必然性はなかった。11年や19年の周期ゼミがいないことも説明できる。周期が維持されやすいことなど、素数にも二次的な効果はあるかもしれないが…」と曽田さん。4年ゲート仮説に手ごたえを感じています。

とはいえ、仮説の検証は第1段階。「本当に、セミが〝4年をはかる時計〟をもっているのか？」という疑問に答える必要もあります。13年ゼミと17年ゼミの遺伝子の働きの違いを調べたり、季節変化を追ったりといった〝宿題〟はたくさん。まだまだ道半ばです。



周期ゼミのブルード

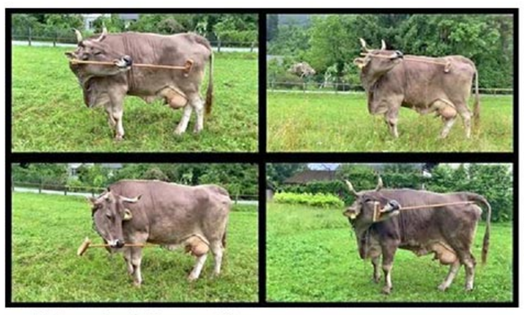
米国東部に生息する周期ゼミ（マジシカダ属＝魔法ゼミの意味、３グループ全７種）には、特定の地域では決まった年に大発生し、別の地域では別の年に大発生するというように、地域によって羽化する年が異なる集団（ブルード＝年級群）があります。同じブルードには複数の種が含まれています。北の各地にすむ17年ゼミには12ブルードあり、例えば、ブルードⅨは2020年に、ブルードⅩは翌21年に大発生し、それぞれ17年後に次の世代が大発生します。南の各地にすむ13年ゼミには３ブルードあります。特定のブルードで掘り出したセミの幼虫は年齢が推定でき、今回の研究では17年ゼミの４ブルードの２種を調べました。

自然の不思議

まるで〝孫の手〟道具を使う牛

まるで〝孫の手〟を使う人間のよう…。ウシも道具を器用に使いこなす能力をもっていることを実証した研究結果を、オーストリアのウィーン獣医科大学の研究チームが報告しました。これまで人間がウシの認知能力を過小評価してきたことを示すと、研究者たちを驚かせています。

〝孫の手〟を使う様子が確認されたのは、有機農家でパン職人をしている人が「ベロニカ」と名付けて長年ペットとして家族のように大切に飼育してきた、スイスブラウンという家畜種の長寿の雌ウシです。10年以上前、ベロニカがときどき小枝を拾い、それを使って体を掻いていることに飼い主が気づきました。


©Antonio J.Osuna Mascaro

その様子が記録された映像を目にした、同大のアリス・アウエルスペルグ准教授は「これは偶然ではない」と確信。飼い主の協力を得て、ベロニカにデッキブラシを与えるとどのような使い方をするのか、行動を観察しました。

その結果、ベロニカはブラシのさまざまな場所を用途に応じて使い分けていました。背中など広くて硬い体の部位を掻くときは好んでブラシの毛先を使い、腹など柔らかく敏感な部位を掻くときは棒の滑らかな部分を使いました。上半身を掻くときは力強く、下半身を掻くときは慎重に繊細に動かしました。（写真）

研究チームは、たんなる道具使用ではなく、柔軟で多目的な道具使用だと強調。ヒトやチンパンジーを除くとまれな例だとしています。

こうした能力は、畜産業で劣悪な環境にいると発揮されにくいが、条件がよければ家畜動物全体でも現れる可能性があると指摘しています。

海底ごみの放置 藻場に深刻被害

海底ごみを数カ月放置しただけで、藻場が深刻なダメージを受けることを4年間のフィールド実験で明らかにしたと、長崎大学などの研究チームが発表しました。一方、ごみの除去による環境の回復効果が実感されるには数年の歳月が必要であることも示され、ごみの継続的な除去の重要性が明らかになりました。

「海のゆりかご」とも呼ばれるアマモ場は、生態系の維持や大気中からの二酸化炭素取り込みに重要な役割を果たしますが、世界的に減少傾向にあります。

ウェストバージニア州での調査。産卵の痕跡がある樹木の下から幼虫を掘り出します＝2019年

研究チームは、2021～24年、長崎県・五島列島の中通島にある有川湾の2地点で実験しました。

海底ごみを継続的に除去する区画と、途中で除去を止める区画に分けて、アマモの変化を追跡した実験では、4年間で計426キログラムの海底ごみを回収。その65％が漁網で、全体の74％がプラスチック由来でした。ごみ除去を続けた区画ではアマモ場が拡大しました。

健康なアマモの上に漁網を設置した実験では、放置すると個体密度が顕著に低下。光合成や水流を妨げると推測されました。